



中栗原第3自治会 (座間市)

やさしいリーダーシップで広がる地

■家族ぐるみのつながりを大切に活動

座間市栗原地区(国道246号、中原小学校、立野台、海老名市に接するエリア)に位置する中栗原第3自治会。「同じ地域に住む仲間として自治会に入った以上、できるだけ多くの人に参加でき楽しい思い出となる活動をしよう」という自治会長の鈴木正夫さんの熱い想いのもと、自治会全体で家族ぐるみのつながりを大切にして活動に取り組

んでいます。1998年から会長を務める鈴木さん。今年で22年目になりますが、就任当時は、各戸を訪問して自治会費を集めることが一つの行事であるほど、自治会意識は乏しかったそうです。

■イベントを通じて生まれた住民の連帯

これではいけないと思い、地域の方々が楽しめるイベントを次から次へと企画。そして実現したのが、大磯海岸での地引き

網とバーベキュー、春秋のハイキング、2年に一度のバス旅行でした。

中でも、毎年夏に開催する鈴木さんの自宅前で行われるバーベキューには、150人以上の方が参加するなど、地域の名物イベントになっています。

さらには、地域の方々に自治会活動をお知らせする「会報」も新たに始めました。会計監査を担当する久保さんは話します。「鈴木会長の発案で始まっ



地域の輪

た様々なイベントは、自治会に大きなインパクトを与えました。イベントを通じてご近所同士のつながりが生まれ、道端で自然に挨拶をするようになりました。また、イベントに参加していない方からも声をかけられることもあり、「会報」による情報はしっかり行き届いていると実感しました。この自治会の一員で本当によかったと思っています」。

一言アドバイス
喜んでもらうためには、
自ら率先して
動くことが大切。

中栗原第3自治会
会長 鈴木 正夫さん

成功のコツ

- ・気配りができ熱い想いのあるリーダーの存在
- ・地域の強い結束を促すような家族参加型イベントの実施
- ・有志による活動を生み出す雰囲気づくりや仕掛け

■目指すは地域の強い結束

鈴木会長に今後の取組みについて伺ったところ、「災害があった時に、みんながワッと集まってくる、そんな仲間づくりをこの自治会でやりたいと思っています。そのためにも、家族で参加できるようなイベントを開催して、お酒でも飲みながら楽しくコミュニケーションをとって住民同士の関係を築いていきたいなど。だから今後も可能な限りイベントを開催していきます」と意欲的です。

また、「近年は、有志によるサークル活動として折り紙教室が行

われています。今後はこうしたサークル活動が続々と生まれてきたらうれしいですね」と手ごたえも感じているようです。

地域に暮らす家族と家族のつながり。鈴木会長を中心とした中栗原第3自治会の活動は、活気溢れる地域づくりと温かいコミュニティの形成につながっています。





辻堂東海岸二丁目町内会（藤沢市）

町内会イベントに加えるひと工夫

■助け合い、支え合いをモットーに

辻堂東海岸二丁目町内会は、相模湾に近い住民の津波災害に対する防災意識が高く、避難訓練を中心に様々な活動が活発に行われています。

「地域のつながりを大切に、「助け合い、支え合い」をモットーに、楽しい自治会を目指しています」そう話すのは、町内会長の関口 望さん。

■毎年一つの新規イベントと様々な工夫

毎年定例のイベントに加え

て、地域の方が参加したくなるような新しいイベントを一つ開催しています。なぜなら「例年どおりにやるのは簡単ですが、地域のニーズは時代とともに変化するので、そうした声に耳を傾けて、どうしたら地域がもっと良くなるか、と考えることが大切」との想いからだそうです。

最初は、新たなイベント企画に対して、メンバーから運営面や集客面での不安の声もありましたが、前向きに議論を重ね、最近では、

ハロウィンイベントや町内バザーなどを実施しました。企画・運営は大変ですが、喜んでくれる方が多く、それが励みになるそうです。

また、イベントを開催するには、何かひと工夫加えています。例えば町内一斉清掃後の芋煮会では、災害時に使用する鍋やガスコンロ等の機材で炊き出すことで、防災に関する知識の共有や機材の点検にもつなげるといった工夫です。社会福祉協議会の取組みを参考に始め



た町内バザーでは、高齢者に代わって近隣の方が荷物を運ぶなど、みんなが参加できるよう工夫しています。

「新しいイベントの開催とひと工夫により、年々地域の参加者が増えています」と関口さんは話します。

■スムーズな町内会運営を可能にするしくみ

こうした取組みを可能にしているのは、三役会（会長、副会長、書記、会計）、部長会（三役会、部長・副部長（防犯部ほか7部）、役員会（三役会、部長会、組長、監査役）で構成さ

一言アドバイス
多くの方に参加してもらうためには、前向きな姿勢で自ら率先して取り組むことが大切。



辻堂東海岸二丁目町内会
会長 関口 望さん

成功のコツ

- ・地域の声にしっかり耳を傾け、ニーズに沿った新しいイベントを毎年一つ実施
- ・スムーズな町内会運営を可能にする、負担分散型の3段階組織形態
- ・イベントにみんなが参加しやすい要素を盛り込む工夫

れる3段階の組織運営です。もともと役員会のみ（1段階）の組織運営でしたが、会議の中で、議論できる段階のもの時期尚早のものが混在し、検討に時間がかかってしまうという課題を解消するために考えられました。毎月1回開催される会議では、「押し付けない」「みんなの意見を聞く」を徹底していることも一つの特徴です。三役会・部長会で行事の企画など柔らかい議論を行い、そして役員会で審議し最終決定することで、企画立案から決定までがスムーズに行われています。

■今後の課題は担い手づくり

関口さんに今後の取組みについて伺うと、「町内会員も会員じゃない人も、地域みんなが楽しめるようなイベントをこれからもやっていきたい。そして、この辻堂東海岸二丁目町内会を継続していくために、担い手づくりにも取り組んでいきたい」とのこと。

イベント当日には、町内を車で回り、マイクで参加を呼び掛ける関口さん。地域のことを誰よりも考え、そして行動する関口さんを中心とした辻堂東海岸二丁目町内会の取組みは地域の活性化に大きく貢献しています。



1月31日版の回覧物をHPに掲載しました。
<https://sites.google.com/view/kaisei-minami/お知らせ/回覧板/2019年度/2020-01-31-回覧板>

みなみ自治会 (開成町)

地域情報をLINE@で配信

■加入世帯の90%が50歳未満の自治会

開成町の「みなみ地区」は、開成町南部地区土地区画整理事業として開発され、2015年5月にまち開きが行われました。その後、住民への説明会や設立準備委員会を経て、2018年に設立されたのが「みなみ自治会」です。この自治会の特徴の一つは、加入世帯の約90%が50歳未満と若い世代が多いことです。

■若年層が多いという特徴を活かして「LINE@」(*)を活用

みなみ自治会では、連絡ツールとして回覧板とホームページ、自治会掲示板等を軸として運営し始めましたが、回覧板をゆっくり読む時間がないことや、ホームページを更新した際に自治会員が気づきにくいことが大きな課題となっていました。そこで、共働きの若い世代が多い自治会の特徴を活かし、広く利用されている「LINE@」

でホームページの更新情報を周知することにしました。この手法を提案したのは、みなみ自治会で広報部長を務める石井 哲夫さん。回覧板は月2回で、ホームページを更新した後LINE@でも配信しています。また、イベント情報は随時配信。「ホームページへ情報を見に行く」から「スマートフォンに情報が来て、見る」に変化したことで、自治会員の情報取得が以前よりも確実になり、LINE@を始め

る前と比較してイベントへの参加者が大幅に増えたそうです。



■大切なのは住民同士の直接的なコミュニケーション

自治会長の長谷川 博史さんは「LINE@はあくまでも情報伝達の補完的なツール。LINE@はとても便利ですが、回覧板も併用しています。回覧板を必要と

一言アドバイス
 自治会長の役割は、引っ張るというよりサポートするというスタンスが大切。

みなみ自治会
 会長 長谷川 博史さん

成功のコツ

- ・若年層が多いという特徴を活かして地域の情報発信にLINE@を活用
- ・住民同士の直接的なコミュニケーションも重視するため、回覧板も併用

している方がいるのはもちろん、お隣さんに渡す際の挨拶や会話が、住民同士のコミュニケーションにもつながると思っているからです。今後も回覧板は大切にしていきます」と話します。

さらに、近年災害が多くなっていることから、「台風や地震は、いつ起きてもおかしくありません。今後はもっと防災に力を入れたいと思います」とのことです。

地域のニーズに合った具体的な取り組み、人と人とのつながりを大切にする想いが「みなみ地区」の活性化につながっています。



※「LINE@ (ラインアット)」とは…無料通信アプリ「LINE」を通して、利用者にメッセージを一斉送信できるツールです。



しんなせ
真名瀬町内会 (葉山町)

コミュニケーションの土台を作り裾野を広げる



■ 海岸で毎朝ラジオ体操

葉山の真名瀬は漁港を中心とした古くからの港町。漁から帰って来た船をみんなで陸揚げするなど、この地域では昔ながらの連帯感が残っています。また富士山が正面に見え、気候も温暖なことから別荘や会社の保

養所なども多く、避暑地・避寒地として人気の高い地域です。

この真名瀬の海岸に毎朝6時半、ラジオ体操の音楽が響いています。夏休みの最盛期には子どもたちはもちろん、別荘や保養所の滞在者が加わり、70～80人になることも。近隣の地区から自転車で駆けつける人なども参加されています。毎日同じ時間に実施することで多くの人の目に付き、口コミで少しずつ広がっています。

その輪の中心にいるのが、町内会長の加藤 清さん。この取り組みが始まったのは、2014年7月22日だと話してくれました。

加藤さんを含めた4人交代でラジオを持ってくる当番を担当することで、無理なく続いています。

■ 始まったきっかけはオリンピック

真名瀬でも子ども会は、夏休みの一定の期間ラジオ体操を行っていました。町内会がそれに乗じたのは、2014年3月



をを広げる

に県の教育委員会から東京五輪の招致決定を受けて、体を動かすことを推奨する通知が来たのがきっかけです。2014年7月から夏休み期間中毎日やろうと、町内に回覧を回して実施しましたが、実際にやってみると、参加の有無が安否確認になることがわかりました。来ない人には様子を見に行き声掛けをするなど気遣いができます。イベントなどと違って、毎日やることがコミュニケーションをとる上

一言アドバイス

みんなに生まれ育った地域への恩返しをする気持ちがあれば、コミュニティになっていく。

真名瀬町内会
会長 加藤 清さん

成功のコツ

- ・毎日続けることで地域の関係づくり
- ・祭りやイベントを通じた町内の他の組織との連携

で有効だと気がついたのです。これが地域での顔が見える関係づくりに役立ちました。

■ 神社のお祭りでコミュニケーションの裾野を広げる

真名瀬には近くに神社が二つあり、年2回のお祭りがあります。地元の祭りは、地域の人たちをつなぐ絶好の機会です。加藤会長はこのチャンスを逃がしません。ラジオ体操をきっかけに子ども会とも協力関係ができていて、子ども神輿の組み立てやお祭りでの飴を撒く催しも子ども会と協力して取り組んでいます。若者が神輿を担ぐ会もあり、

この3者が連携する体制ができています。

それは祭りだけでなく、災害対策としての炊き出し訓練などにも活かされています。

毎日のラジオ体操でコミュニケーションの土台を作り、お祭りや防災訓練で人と人とのつながりの裾野を広げる、そんなコミュニティが小さな漁港に広がっています。





「防災で地域をつなぐ」プロジェクト（海老名市）

出典 8ルネ・エアズビル自治会

「防災」でマンション住民と周辺住民のつながりを築く

■地域共通の課題である防災

海老名市自治会連絡協議会相談役（元会長）の山本 准さんは、番組制作会社勤務時代に、ゲリラ豪雨などの災害問題に携わる中で、防災への意識が強く生まれたそうです。

2011年、東日本大震災が発生し、すぐさま行った被災地でのボランティア活動で、様々な問題を目の当たりにする中で、何か対策ができないかと考えるようになりました。例えば、高

齢者が屋外の仮設トイレが綺麗ではないと我慢して倒れたことを現場で耳にして、簡単で衛生的な簡易トイレはないかといったことです。

■防災で地域をつなぐ

震災の年、海老名市の自宅マンションの自治会長を務めた山本さんでしたが、新たな大規模マンションは、地域環境の変化を懸念する従来の住民から敬遠されがちで、新旧住民の地域コミュニティは希薄でした。そこ

で、マンションを災害発生時の近所の方々の避難施設とすれば地域住民同士の交流が生まれるのでは、と考えました。

その考えを具体化したのが、2015年10月に市と自治会連絡協議会で結ばれた協定です。この協定によって、受け入れ側のマンションに余裕があれば、周辺住民がそのマンションに避難することができるようになりました。これを機に、周辺の従来からある自治会の理解と協力も



一言アドバイス
地域の共通の関心事を
テーマに取組みを
検討してみる。



海老名市自治会連絡協議会
相談役（元会長）
山本 准さん

成功のコツ

- ・マンションを地域の避難施設とすることで、地域住民同士の交流の場をつくっている
- ・自治会員のニーズに応えることで、自治会の価値を向上させている

会との考え方の違いに苦労しました。しかし、山本さんの経験談などを参考に、丁寧に話し合いを重ねたことで、徐々に理解が広がり、今では市内のマンション単自治会は全て協定に加盟しています。

■防災で自治会と会員をつなぐ

このほか、ある自治会長から、「どこでどんな災害備蓄品を買えばいいのかわからないとの声が寄せられている」との相談についても、自治会員に対して防災用品カタログを配布し、希望者が購入できる仕組みを立案しました。利用者からも喜びの声

があり、自治会長も「自治会加入のメリットを示すことができた」との声をいただいているそうです。山本さんも、「不安は誰もが一緒。これらのことで自助・共助がより芽生え、自治会離れを防ぐ一助になれば嬉しいです」と話します。

昔から住む住民と、大規模マンションに転居してくる住民という地域特有の課題に対し、防災をテーマにアプローチする今回の取組みが、地域のつながりを築いていきます。